

# ウサギ・モルモットのふれあい用保定袋の使用法と効果について

長野県動物愛護センター

川村昭道 大木正行 小林文範 丑山隆雄

## 1 はじめに

小動物とのふれあいを行っている施設やスペースは全国に数多くあり、指定の場所でケージ越しに触れる、囲まれたスペースに入って自由に遊ぶ、係員が付き添って抱かせる等、様々なタイプのふれあい方法がある。

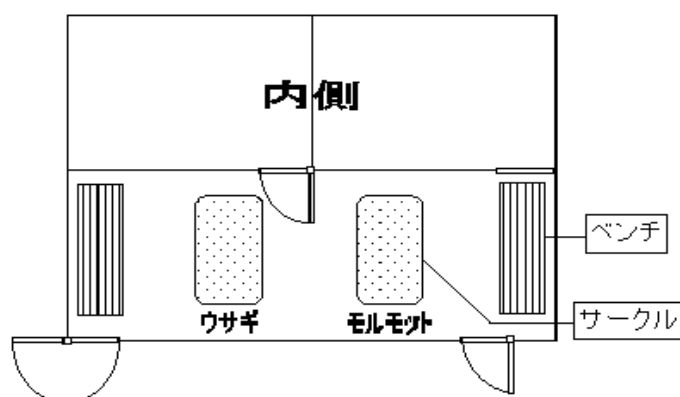
当センターではウサギ・モルモットとのふれあいを通じて、命の大切さや相手を思いやる気持ちを育む目的で、ふれあい方の様々な工夫をしている。

ふれあい方法は、係員が付き添う形をとっており、その中でセンターの趣旨に沿った方法は無いかと様々な物を使い試行錯誤した結果、市販の児童用体操着袋を保定袋として試用したところ、人と動物に優しいふれあいが行え、来館者から好評を得ることができたので報告する。

## 2 ウサギ・モルモットのふれあい状況

センターでは現在ウサギ12羽、モルモット15頭を飼養しており、ふれあいはウサギ・モルモットのプレイルーム(図-1)で行っている。

図 - 1 ウサギ・モルモットのプレイルーム



**\* 屋根がついており、直射日光は当たらない。**

ベンチに2～3人で腰掛けて、係員が一人一人に動物を入れた保定袋を渡す。その際、係員が抱き方を指導し、転落事故や咬傷事故が無いように監視する。ある程度、時間を置いて次の来館者に交代し、これを繰り返す事により、秩序ある安全なふれあいを行っている。

## 3 保定袋の使用目的と構造

ふれあい時の保定は、来館者・動物・係員にとって安全かつ容易でなければならない。この条件を満たす事で、来館者・係員が満足のいくふれあいを実施できるようになる。

当初はタオルを用い、動物を包んだり、咬傷や引っ掻きに対する子供の恐怖心を抑えたりしていたが、嫌がってタオルごと動物を落とされる、動物がタオルから飛び出してしまうといった事例が多発したため、児童用の体操着袋を採用した。

最初の体操着袋はその後、ナイロン生地や丈夫な綿素材等のバッグを採用した結果、現在のタイプの保定袋となった。(写真-1・2)

写真 - 1 表側



写真 - 2 裏側



保定袋は、以下の条件を満たす事で動物・人共に良い成果が得られた。(表-1)

- (1) 素材:天然繊維 綿や麻が好ましい。食べても支障が少ない。
- (2) 質感:適度な厚さと頑丈さ 齧られてもすぐ壊れない。何回もの洗濯に耐えられる。失禁をした際でも、多少は吸収する。
- (3) 大きさ:ウサギとモルモット毎のサイズ 体型に合わせたサイズ。安定する。
- (4) 手提げ:丈夫な手提げ 交代や運搬のし易さ。
- (5) その他:側面のポケット 暑い時期に保冷剤を入れ、袋内の温度を下げる。底面の吸収素材 失禁で来館者の服を汚さないようにする。側面のプリント 小さな子供たちが視覚的に馴染みやすいもの。

表-1 保定袋のメリットとデメリット

	メリット	デメリット
来館者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・抱きやすい。</li> <li>・噛まれづらい。</li> <li>・引っつかかれない。</li> <li>・動物が落ち着いてる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全身が見えない為、身体の仕組みが学びづらい。</li> <li>・直に抱く方法が学べない</li> </ul>
動物	<ul style="list-style-type: none"> <li>・隠れられる。</li> <li>・転落事故が減る。</li> <li>・直に抱かれるより、ストレス軽減される。</li> <li>・袋の中では、撫でてもらえる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・袋の中が熱くなる。</li> <li>・長時間固定されてしまう。</li> <li>・周りが見えない状態でどの方向に動くか分からない。</li> </ul>
係員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・持ち運びやすい。</li> <li>・場所を取らず、片付けやすい。</li> <li>・動物がおとなしくなるので、抱かせやすい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・失禁した時に漏れてしまう。</li> </ul>

#### 4 問題点と今後の課題

この保定袋は通年で使用するが、動物を包む形状の為、袋内の温度が上がりやすい。

夏場は特に気温が高く来館者の体温もあるので、袋内の温度が上がり、動物の負担が大きくなってしまう。

その対処法として、保冷剤をポケットに入れて温度を下げる工夫をしているが、結露が発生し袋が濡れて、使い心地が悪くなってしまった。

そこで、次に述べる事項を今後の改良点として、検討していきたい。

- (1) 気温に合わせた素材の選択。(夏用、冬用)
- (2) 洗濯しても損傷が少ない素材の選択。(天然素材、低コスト。)
- (3) 保冷剤を使用した際に発生する結露を減らし、使い心地を向上させる。
- (4) 動物が失禁をした際、袋の外側に漏出しない工夫。(吸収素材)

#### 5 まとめ

来館者対象のふれあい体験は、動物愛護の気持ちを育むうえで効果的である。また、動物のストレスを除去する事は、動物福祉の面からも必要な事である。

ふれあい用保定袋を使用したふれあい方法は来館者には安心を、動物には安全が確保でき、当センターの趣旨に沿ったものとして、現在実施しているが今後は更に改良を加えて、より質の高いふれあい方法を確立していきたい。